

震災復興支援イベント [大阪弁護士会主催]

福島 の現状 ～健康不安の日々～

福島第一原子力発電所事故後の被災者・滞在者の健康不安をテーマとしたドキュメンタリー映画「A2-B-C」を上映し、併せて、報道記者による被災者・避難者への取材活動を通じて感じた避難生活の現状を報告していただき、被災者・避難者へのあるべき救済のあり方についての議論を活発化させたい。そして、今なお、大阪府下、あるいは、近畿圏内に避難生活を続けておられる方々に対する「なんでも相談会」を実施し、避難者への救済・支援活動に繋がりたい。併せて、平成27年3月10日(火)から3月14日(土)の間に大阪弁護士会会館1階のロビーにて、被災地の震災当時とその後の様子を伝える写真展を行い、東日本大震災・原発事故を忘れない。そんな思いで企画しました。

2015 **3/14(土)**
13:00～16:45
大阪弁護士会館 2Fホール

入場無料

一時保育有り
(裏面詳細)

第一部 | 13:00-14:25

ドキュメンタリー映画「A2-B-C」上映



上映映画「A2-B-C」

[ストーリー]

2011年3月11日 東日本大震災による福島原発事故発生。

本作は、日本在住のアメリカ人監督イアン・トーマス・アッシュが福島原発事故以降の福島の子どもたちを追ったドキュメンタリーである。

まるで家族のポートレイトを撮るかのように愛情をもって、原発事故以降の福島を掘り続けるアッシュ。テレビでは報道されない福島の厳しい現実と、福島に住む人々の切実な訴えが、カメラを通して静かに映し出される。

果たして、子どもたちの未来は安全なのか？

それでも、私たちは、何も起こっていないと見過ごすことができるのか。

[監督] イアン・トーマス・アッシュ Ian Thomas Ash

1975年生まれ。アメリカ出身。

最初の長編ドキュメンタリー『the ballad of vicki and jake』(06年)が、スイスドキュメンタリー映画祭でグランプリを受賞。滞日歴は10年に及び、原発事故後の福島でも本作『A2-B-C』をはじめ、『グレーゾーンの中』(12年)などの作品を製作している。本作はニッポンコネクション(ドイツ)で「ニッポン・ビジョン賞」を、グアム国際映画祭で「BEST OF FESTIVAL」を受賞している。



第二部 | 14:35-16:30

報道記者が語る「原発避難者の現状」

毎日放送のディレクターと記者が東日本大震災による福島原発事故の避難者の軌跡と現状、そしてこれからを語る。昨年3月16日に「映像'14」で「自主避難～原発事故3年・家族の苦悩」が放映された。津村ディレクターの取材によるものだ。「避難するも留まるのも、茨の道。そんな状況に福島の人々を追い込んでいるものは、何なのか。全国に原発がある中、国民全体で考えていかなければ成らない問題です。」と訴える。齊加記者は、大阪市の教育問題などに切り込んできた。また、避難者の取材を地道に積み重ねている。いつも被害者の目線で問題提起をする。会場からの意見も踏まえ、「原発問題」を自分たちの問題として、活発な討論を展開したい。

■ 講演者

津村 健夫 さん
(毎日放送 報道局ディレクター)

齊加 尚代 さん
(毎日放送 報道局記者)

第三部 | 15:45-16:45

震災なんでも相談会

同時開催

(希望者のみ。但し、相談を希望される方は、第二部の途中(ディスカッションに入る前)で退席の上、相談に行ってください。)

原発事故に関わる賠償請求について賠償請求の方法や具体的な内容について詳しくご相談をいただけます。

また、東日本大震災や福島原発事故に関する相談であれば、「なんでも」対応いたしますので、お気軽にご相談ください。

震災復興写真展
[当館ロビー1Fにて]